

5歳児保育指導案

平成24年〇月〇日（ ）

担任教諭

1 研究主題

「豊かにかかわり合う 学び合う 育ち合う幼児・児童の育成」
—学びや育ちをつなげる幼・保・小の連携—

2 小学校との交流活動（経過）

月・日	活動の内容	配慮点
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○1, 2年生との交流 ・自己紹介をし、ペアづくりをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流活動の際には、継続して同じペアを組むことで、相手の顔や名前を早く覚え、幼児が安心して活動できるよう配慮した。 ○手を繋いで散歩に出掛けたり触れ合って遊んだりすることで、親しみがもてるようにした。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生と園外保育 ・むさしの村までペアで歩き、桜の花びらで遊んだ。 ○学校見学 ・1年生の教室や校長室を見学した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校内を巡ったり授業を参観したりすることで小学校を身近に感じられるようにした。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○1, 2年生との園外保育 ・むさしの村で小動物に触れたりえさやりをしたりした。 ○1, 2年生との遠足 ○1年生の授業見学 ・一緒に歌ったり、絵を描いたりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流を重ねることで、互いの良いところに気付くよう声を掛けたり、安心感や憧れの気持ちが高まったりするよう援助した。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生・5年生との交流 ・幼稚園での忍者ごっこに招待した。 ○1年生との交流 ・1年生の教室でフィンガーペインティングをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分達の作った遊びを小学生に知ってもらったり、認めてもらったりして自信や充実感を得られるようにした。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校巡り ・幼児が作ったお神輿を担いで全教室を巡った。 ○5, 6年生との交流 ・小学校で水遊び（プール活動）をした。 ○1年生との交流 ・校庭でしゃぼん玉遊びをした。 ・1年生の「大きなかぶ」の劇を見た。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校内を巡ることで、満足感が得られるようにした。 ○小学校のプールに入ることで、学校でのプール活動がスムーズにできるようにした。 ○小学生と一緒に活動したりすることで、憧れの気持ちや自分達もやってみたいという意欲がもてるようにした。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会に参加 ・運動会に向けて行進、開会式の練習に参加した。 ・1・2年生とダンスを見せ合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事に参加し、楽しさを感じるとともに、「みんなで頑張ろう！」という気持ちを高め、自分が集団の一員であることを意識させた。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生との交流 ・3年生と自己紹介や挨拶をし合った。 ・3年生が昼休みを利用し、幼稚園に来て一緒に遊んだ。 ・触れ合い音楽会をした。（体育館） ○1年生とのポップコーンパーティー ・1年生が収穫したポップコーンを一緒に食べた。 ○6年生とのハロウィンパーティー ○小学校のふれあいフェスタに参加 ○1年生との秋の自然物を使った遊び ○5年生との交流 ・5年生が昼休みや授業時間を利用し、グループごとに幼稚園に来て、紙芝居や絵本の読み聞かせをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生のお兄さんお姉さんと一緒に、楽しみながらいろいろなことを教えてもらうことで親しみをもたせた。 ○3年生の歌を聴き、「きれいな声だな。」「素敵な歌だな。」「自分達も歌えるようになりたいな。」などという憧れの気持ちがもてるようにした。 ○小学生と一緒に季節の収穫物を食べることや行事を楽しむことなどの体験を通して、自分の思いを小学生に伝えたり小学生の話を聞いたりし、発見や感動を共有し合うことで、さらに親しみがもてるよう環境づくりを工夫した。 ○自分達が入学する時には最高学年になる5年生と触れ合い、交流を重ねることで、入学後の安心感へとつなげるようにした。

【視点1】

教育課程の持続性・統一性をふまえて、滑らかな接続を工夫することにより、子ども達の「学びの基礎」を高め、学力の3つの要素（基礎的な知識、技能、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度）を育成する。

【視点2】

発達段階をふまえて、身近に接する機会を計画的・意図的に設け交流を深めることにより、子ども達の「人（もの）とかかわる力の基礎」「豊かな心」を育む。

3 本時までの活動の経過

○教師の連携

- ・教師間で連携を取り合い、年間を通して幼児・児童の実態を踏まえた意図的な交流計画を立てている。
- ・学びや育ちのつながりを意識し、主に1年生の担任教師との話し合いの場を設け、幼児・児童の交流を計画的に行っている。

○児童と幼児の姿

- ・兄弟や昨年度卒園の児童が媒介となり、お互いに名前を呼び合ったり小学校の休み時間を利用したりして一緒に遊ぶ様子が見られた。教師は、そのような関係を大切にし、さらにかかわりを広げることで、幼児が安心して交流を行えるように援助してきた。

○幼児の姿

- ・年少の頃から小学校との交流を行っているため、不安を感じる幼児は少なかったが、4月は新しいペアとの挨拶や、自分達の生活環境が変わったことなどから、緊張した様子が見られた。
- ・園外保育や授業見学などを通して、お互いの名前を覚えたり幼児が喜んで学校に足を運んだりする姿が見られるようになっていった。1学期後半から2学期に入ると、高学年との交流や運動会、3年生との交流も重ね、幼児達の中に「お兄さんお姉さんすごいね。」「かっこいいな。」などというような気持ちが高まってきた。
- ・10月には就学時健康診断を経験し、小学校への興味やもうすぐ1年生になるんだという意識が芽生え始めている。

◎そこで、本時は1年生の授業に参加し、「学校ってどんなところかな。」ということを学習したり体験したりすることで学校に対する関心を高めるとともに、親子で参加することでさらに入学への期待や安心感を得られるようにしていきたい。